

【教育目標】

四條畷学園中学校

平成22年

創立の理念「報恩・感謝」を継承し、楽しい学校・温かい学校作りに邁進する。中学校3年間において、基本的な生活習慣、確かな学力、共生の心をしっかりと身につけさせると共に、個性を伸ばし個々の進路目標を達成させる。また激しく変化する現社会に順応できる柔軟かつ再生力を持つ子供を育成する。

《具体的目標》

[1] 教員一人ひとりのスキルアップ。

- ① 教員みずから模範を示し、全教員の同一步調で指導する。
(挨拶・遅刻・言葉遣い・提出期限・節約など)
- ② 教材研究の徹底及び分かりやすい授業を行うための創意工夫。
- ③ 自己研鑽のための各種研修会への参加の奨励。
- ④ 上手な生徒・保護者への対応及びクラス運営の研究・模索。
- ⑤ 教員組織の活性化。(学年・教科間・担任間など十分な連携)
- ⑥ 中学校青年部会(30歳未満で編成)からの意見の吸い上げ。

[2] 基本的な生活習慣の育成

□ 挨拶の励行

- ① 生徒会と教員による「おはよう会」の実施
- ② 担任による朝礼・終礼時の挨拶と指導の徹底
- ③ 授業開始及び終了時の教科担当による挨拶と指導の徹底
- ④ クラブ活動における各クラブでの顧問による指導の徹底

□ 時間を守ろう

- ① 「ノーチム運動」のさらなる推進
- ② 正味50分授業の実践

□ 欠席・遅刻をなくそう

- ① 健康管理の指導
- ② 担任・学年・学校による個人面談
- ③ 保護者との十分な連携及び必要に応じての家庭訪問
- ④ 不登校生徒の支援。保護者、ICP、保健室との連携

□ 登校・下校の交通マナーの指導

- ① 徒歩通学における歩行マナー
- ② 自転車利用時の安全講習及び乗車マナー
- ③ バス・電車など公共交通機関の利用マナー

□ 思いやりの心の育成

- ① 友達づくり
- ② いじめの撤廃

- ③ 美しい言葉遣い
- ④ コンピュータ・携帯電話のネチケットの指導
- ⑤ 席譲り運動の強化
- ⑥ 机・椅子・校舎、教科書・ノートなど物を大切にする心の育成
- ⑦ ECO 指導（電気、水道、冷暖房、プリントなど）
- 美しい環境づくり
 - ① 落ち着いた環境づくり
（きれいな教室・きれいな黒板・きれいな机・明るい教室）
 - ② 教室・廊下・トイレなどの清掃の徹底
 - ③ きれいな教室・きれいな黒板・きれいな机

[3] 学力の習得の向上

- 教員の資質向上及び自己研鑽
- 「分かりやすい授業」の展開
 - ① 授業の充実と創意工夫
 - ② 同一教科内及び教科間での密なる連携
 - ③ 教材・サブ教材の精選
 - ④ 習熟度別授業の実施
 - ⑤ 「吹きこぼれ」「落ちこぼれ」の指導対策
 - ⑥ 各種検定試験取得の勧めとその指導
英語検定・漢字検定・数学検定
- 具体的な実施項目と目標
 - ① 勉強とクラブの活動の両立を目指
 - ② 各種講習・早朝テスト・終礼時の小テストの実施し確かな学力の獲得
 - ③ 自分を知り社会を知るにより規律と社会性の育成を行う
 - ④ コミュニケーション力を身につける

[4] 心身鍛錬と好ましい人間関係の育成

- クラブ活動への参加奨励と活動の活性化
運動部 10 クラブ、文化部 9 クラブ
- 多彩な学校行事の実施
体育会・文化祭・宿泊研修・修学旅行・耐寒OL など各種行事の目的の再確認。

平成22年度 教員による「自己評価」の結果報告

H23年4月

四條畷学園中学校

□ 自己評価アンケートの実施について

- [1] 実施時期：平成23年3月
- [2] 調査対象：中学校本務教員
- [3] 評価項目：学校運営及び教育活動に係わる36項目についての自己評価
- [4] 評価方法：各項目について5段階評価で実施
 - 5：その通りである（達成度80～100%）
 - 4：どちらかといえばその通りである（達成度60～79%）
 - 3：どちらともいえない（達成度40～59%）
 - 2：どちらかといえば違う（達成度20～39%）
 - 1：全く違う（達成度0～19%）
- [5] 質問項目とその平均評価

NO	評価項目 学校運営（1～11） 教育内容（12～23） 生徒指導（24～33） 教員研修（34～36）	今年度 評価	昨年度 評価
1	建学の精神「報恩感謝、尊敬される人間の育成」をよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	4.4	4.3
2	教育方針「個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主」をよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	4.4	4.4
3	教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4.2	4.1
4	年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿い指導している	4.3	4.4
5	教育問題について教員間でよく話し合って教育活動が行われている。	4.3	4.0
6	職員会議・学年会議をはじめとする各種会議・委員会が、情報交換と検討課題の場として有効かつ効率的に機能している。	3.8	3.4
7	私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展を目指して教育活動の充実を図っている。	4.3	4.1
8	経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考えて学校経営を行っている。	4.1	4.0
9	学校HPの公開掲示板で可能な範囲の教育活動や情報を提供している	4.0	3.7
10	危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担している。	4.2	4.0
11	緊急時に備え、警察・消防との連携、訓練など学校の安全対策を十分とっている。	4.0	4.1
12	授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行っている。	4.5	4.6
13	生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	4.4	4.4
14	授業を受ける基本的な態度・マナーを身につけさせ、落ち着いた雰囲気 で指導している。	4.5	4.6
15	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	4.2	4.0
16	情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	4.0	4.4

17	周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	4.5	4.5
18	人権にかかわる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	4.5	4.4
19	自然を大切にすると環境を保全しようとする態度を育てている。	4.2	4.4
20	心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	4.5	4.5
21	文化祭や体育会等の生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	4.6	4.5
22	読者タイムの実施・図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	4.5	4.3
23	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	4.1	4.4
24	生活の基本である時間を守るという指導を行っている。	4.6	4.6
25	挨拶をはじめとして礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行っている。	4.6	4.6
26	服装・頭髪・持ち物等の生活面の規則・ルールを理解させ守らせている	4.5	4.5
27	生徒に清掃、校内美化に取り組むよう指導している。	4.7	4.5
28	家庭と学校との協力と連携の下に生徒指導を行っている。	4.6	4.5
29	学習の遅れている生徒への支援を生徒の実態に合わせて行っている。	4.0	4.0
30	生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行っている。	4.4	4.3
31	生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスを実施している	4.4	4.3
32	個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。	4.5	4.3
33	学園高校や短大・大学への内部進学を希望する生徒には積極的に支援している。	4.2	4.3
34	教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換を行う機会がある。	4.0	3.8
35	教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修計画を立案し、計画的に教職員に研修を実施している。	4.2	3.7
36	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	3.8	3.5

《分析とその対策》

学校目標に基づき、一人ひとりの教員がどの程度目標を達成できたかを自己評価した。

調査結果をしっかりと分析して、そこから見えてくる新たな課題・問題点を今年度の改善の目標として取り上げより一層の向上を目指したい。

① 評価項目36に平均評価は4.3で、昨年の平均4.2を少しだけ上回った。

しかしながら、平均評価を下回る項目が15項目あること、そのうち評価3.8の2項目については早急に具体的な対策を講じる。

- ② 学校運営に関する11項目（1～11）は平均評価4.2である。また、昨年度と比較して7項目で評価が上がり努力の成果がみられるが、（質問6）会議の有効性の評価が極端に低いことは今後の大きな課題である。
- ③ 教育内容に関する12項目（12～23）は平均評価4.4と高い。
中でも、教科指導、人権教育、保健教育、生徒会活動の分野はほぼ満足いく結果である。
- ④ 生徒指導・生徒支援に関する10項目（24～33）は平均評価4.5と最も高評価となっている。ただこれらの項目の中で、（質問29）学習支援については、教員の理解と生徒の思いに温度差があるのではと懸念する。基本的な生活指導である時間時間を守る、挨拶と礼儀、校内美化の評価が高いことは大変喜ばしい。
- ⑤ 教員研修に関する3項目（34～36）は平均評価が4.0と低い。
特に研修成果の共有状況について、研修・研究に参加した個人が、他の教員にしっかりと伝え情報を共有する体制の確立を図りたい。